

(Q2)「クローン技術」とは、どういう技術ですか。

クローン技術とは、「クローン」つまり遺伝的に同一な個体を作製する技術です。

みなさんの多くは、「クローン技術」が最近になって始められた技術であると思っておられるかもしれませんが、この技術は、古くから農業において使われてきました。

例えば、チューリップの球根、ジャガイモの塊茎、アジサイの挿し木、ヤマイモのむかご（種イモ）による増殖など、種子によらない増殖方法すなわち無性生殖は、植物の繁殖技術として広く使われています。このようにして作られた個体はクローンであり、遺伝的には親とすべて同じ性質を備えており、品質のそろった農作物、園芸作物などの生産に役立っています。

また、クローン技術の一つとして、植物の組織を人工的に増殖させる技術（細胞培養、組織培養技術）が開発され、苗の増殖などのために広く使われています。

さらに、最近では、一部のほ乳動物においても、遺伝的に同一なクローン個体を作製する技術が可能となってきました。

詳しくは、次の設問で説明します。

(参考)

農業におけるクローンの利用

クローン技術は古くから農業において使われてきました。

植物のクローン技術

